

2014 年度日本文化体験プログラム（禅寺体験などを中心として）

Japanese Culture Experience Program 2014
(Activities with Local Residents at a Zen Temple)

章 潔、小嶋 栄子、富場 康、牟田 美信

要旨

2013 年度に引き続き、今年度が二回目となる本プログラムは、長崎短期大学国際コミュニケーション学科に在籍している韓国、台湾、アメリカ、ミャンマー、中国、マレーシア、フィリピン、イタリアの留学生計 18 名を、長崎県東彼杵郡波佐見町岳辺田郷にある亀井山東前寺（真言宗）に派遣し、座禅、写経、カルタ、お琴などの日本文化体験をするものである。本プログラムを通して、地域住民と留学生たちに文化交流・国際理解の機会や場の提供を行うとともに、留学生を主体とする民間レベルでの国際交流活動の一層の促進を図りたい。

キーワード

日本文化体験 留学生 禅寺体験

実績報告

I. 参加留学生構成（国・地域別、性別）

国籍・地域	男（名）	女（名）	計（名）
韓 国	5	2	7
台 湾	1	2	3
アメリカ	2	0	2
ミャンマー	2	0	2
中 国	1	0	1
マレーシア	1	0	1
フィリピン	0	1	1
イタリア	0	1	1
合計	12	6	18

II. プログラム日程表

2014 年 10 月 29 日（水曜日）

時間	内容	備考
11:00	長崎短期大学出発	留学生たち 18 名乗車（貸切バス）。
13:00	東前寺に到着	
13:05	歓迎式	学生代表の挨拶（韓国男子学生 1 名、フィリピン女子 1 名）。
13:30	波佐見町内見学	金屋神社、鬼木棚田。
14:30	絵付け体験	陶芸の館で。

時間	内容	備考
16:00	東前寺に戻る	
16:05	境内清掃、食事の準備	
16:40	清掃終了	
17:00	波佐見温泉に入浴	行かない留学生は東前寺で食事の支度を手伝う、待機。
19:00	地域の住民と一緒に食事会	
19:30	片付け	
19:35	写経体験	
20:00	留学生によるミニ語学講座	その後、波佐見町の中高生との交流会。
22:00	自由時間	
23:00	消灯、就寝	

10月30日（木曜日）

時間	内容	備考
06:00	起床	
07:00	勤行、座禅体験	
08:00	地域の住民と一緒に朝食	
08:30	片付け	
09:00	留学生によるミニ茶会	お点前はまだ学習していないので、お茶の飲み方、お菓子の取り方（鎮信流）を地域の住民たちに教え、一緒にお茶を楽しむ。
10:00	日本文化体験	カルタ、お琴、波佐見音頭。
11:00	清掃	
11:40	東前寺出発	
12:40	長崎短期大学到着	
13:10	留学生たちが午後の授業に参加	

Ⅲ. 地域住民に対するアンケート調査結果

本プログラムに参加した地域住民（波佐見町）についての状況を把握するとともに、禅寺体験に対する地域住民側の感想、要望について調査を行い、今後の改善のためにアンケートを実施した。アンケート調査の回答数は標本数34件、有効回収数34件（34人）であった。調査結果の要約は以下のとおりである。

1. 回答者の属性

性別を見ると、「男性」12人（35%）に対し、「女性」22人（65%）と「女性」が多い。年齢別では、「70歳以上」18人（53%）が圧倒的に多く、ついで「19歳以下」が10人（29%）、「60歳代」が4人（12%）「50歳代」が1人（3%）、「40歳代」が1人（3%）の順となっている。参加者は東前寺檀徒会の役員と波佐見町立波佐見中学校の生徒たちのみになっているため、このような年齢層構成比になったと思われる。

2. アンケート問題（1）の回答

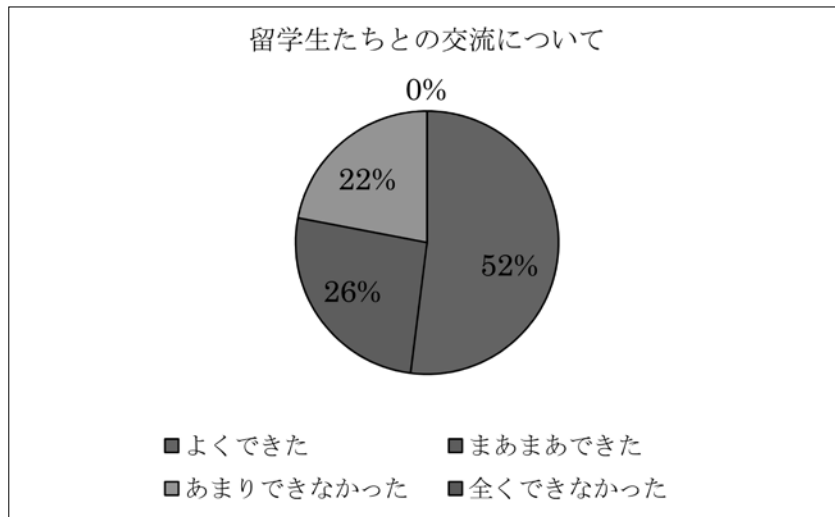
問題（1）は「禅寺体験がもっといいプログラムになるため、何を望まれますか？」である。これに対する

回答結果は以下のとおりである。

- ① 参加をされた学生さんの出身国の現状と生活感等を話をしてもらえたらと感じた。また、将来の夢などを語っていただければ興味と親しみが深くなると考えます。
- ② 双方の人数ができるだけ近いほうが良いのではないか。
- ③ 東前寺と十分協議してください。
- ④ とても和やかで、楽しい交流でした。ありがとうございました。
- ⑤ みんな力を合わせてほほえんで今までどおり歩いて行きたいと思います。
- ⑥ 楽しいプログラムを入れて下されば良いと思います。

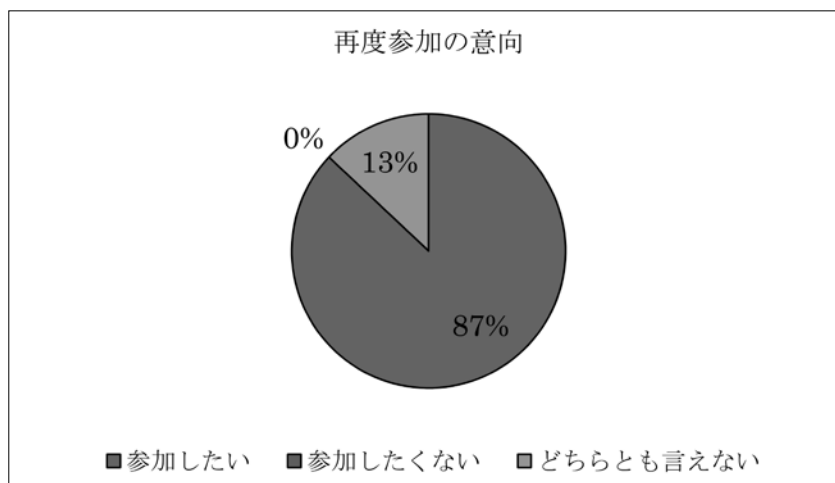
3. アンケート問題（2）の回答

問題（2）は「あなたはこの禅寺体験を通して、留学生たちと交流できましたか？」である。留学生たちとの交流について、「よくできた」が18人（52%）、「まあまあできた」が9人（26%）、（あまりできなかった）が7人（22%）となっており、「全くできなかった」の回答は一人もいなかった。



4. アンケート問題（3）の回答

問題（3）は「あなたは、またこのプログラムに参加したいと思いますか？」である。本プログラムへの再度参加の意向があるか尋ねたところ、「参加したい」が30人（87%）、「どちらとも言えない」が4人（13%）となっており、「参加したくない」が0人であり、概ね良い評価を得ている。



5. アンケート問題（4）の回答

問題（4）は「ご感想・ご意見があれば自由に書いてください。」である。次のようにまとめた。

- ① 留学生それぞれの個人的理由もあるでしょうから、その点お話をしていただける範囲で知りたいと思うし、東南アジアで仕事をしている関係でその後の事情を尋ねたいと考えました。
- ② 事前にもっと打ち合わせを良くしてほしい。
- ③ 殆どの生徒さんがなじまれている良かったです。
- ④ とても楽しい二日間でした。これからも楽しい日々が過ごせる様頑張ります。
- ⑤ 一番大切な自己紹介をもっと充実したものに。
- ⑥ 参加人数によりますが、全体又はグループ分けして、より良い体験のできるゲームをしてほしいと考えます。
- ⑦ お別れの折の記念写真は良い事なので続けてほしい。
- ⑧ 出身国は違えども、話されている事を聞くと、学生同士は仲良くお互いを理解しようという気持ちが表れており、お手伝いをした私にとって触発され、まだまだ頑張れる事の実感を得て、良い経験と喜びでした。厚く御礼を申し上げる次第です。



写真1 留学生によるミニ語学講座（2014年10月29日章撮影）

IV. まとめ

近年、日本ではグローバル化の進展に伴い、人々の行き来が盛んになり、外国人と身近に接することも多くなってきた。このような時代背景の下で、長崎短期大学は、教育・研究はもとより、国際貢献・地域貢献についても短大の責務として位置付けて運営を行ってきた。長崎短期大学の地域貢献という観点から始まった本プログラムは、大学と地域双方の理解を深め、留学生の満足度を上げるなど様々な効果を生んだ活動に発展してきたのである。グローバルな世界で活躍するために日頃勉学に励んでいる留学生にとって、本プログラムは日本の伝統に根ざした文化・習慣に触れさせ、グローバルとローカルを自分の中に統合させる実践となっている。一方、現在、人口減少により自治体としての存続が厳しい地域が増えている中、大学と連携した地域活性化の

重要性が日々論じられている。本プログラムを通して、地域の人々にとって新しい発見ができることも少なくない。はじめは少し戸惑う人もいたが、交流を通して、言葉を交わし接してみると、地域の人々に変容し、「また参加したい」などの強い要望の声を発したのである。

留学生にとっても地域の方々にとっても、本プログラムはまさに「一期一会」の貴重な機会であり、その重みを自覚しながら、お互いにとって有意義で楽しい交流機会をこれからも提供し続けていきたい。また、グローバル化の流れと共に、国境、世代を越えた人々のつながりを育み、同時に留学生たちの長崎に対する新たな見識および異文化理解をより一層深めることに寄与していきたい。



写真2 留学生によるミニ茶会（2014年10月30日章撮影）